

授業実践発表

滝川市立明苑中学校 1学年
教諭 運上颯紀

1 教科書 光村図書 国語1

2 単元名 比較・分類／情報を整理して書こう／話の構成を工夫しよう／聞き上手になろう

3 単元の目標

①比較・分類、情報を整理して書こう

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使うことができる。[情報(2)イ]	・目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。 [B 書く(1)ア]	・言葉がもつ価値に気づくと共に、我が国の言語文化を大切に して、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

②話の構成を工夫しよう・聞き上手になろう

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。[言葉・漢字(1)ア]	・自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えることができる。 [A 話す・聞く(1)イ] ・必要に応じて記録したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。 [A 話す・聞く(1)エ]	・言葉がもつ価値に気づくと共に、我が国の言語文化を大切に して、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

4 評価基準

①比較・分類、情報を整理して書こう

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。	・目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。	・集めた材料を粘り強く整理し、学習の見通しをもってわかりやすく説明しようとしている。

②話の構成を工夫しよう・聞き上手になろう

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。	・自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。 ・必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。	・話の構成を粘り強く考え、学習の見通しを持ってスピーチをしようとしている。 ・進んで質問しながら、話の内容を捉え、今までの学習を生かして話を引き出そうとしている。

5 単元の計画

①比較・分類、情報を整理して書こう

本単元では、総合の校外学習と関連させて行った。校外学習で見聞きしてきた情報を整理し、まとめの新聞を書くための準備の活動と位置付けて行った。

時間	学習活動	○指導上の留意点 ・評価
1	・情報の整理の方法（表・グルーピング・ベン図・フローチャート）について、用途や読み取り方を理解する。	【知識・技能】情報(2)イ
2	・学んだ整理の方法（グルーピング・フローチャート）を実践する。（ジャムボード）	【知識・技能】情報(2)イ
3	・校外学習で聞いた内容についてメモした情報を、グルーピングを使って整理する。 ・班の研修テーマにしたがって、優先度の高い情報を順位付けする。	【思考・判断・表現】B書く(1)ア ○グルーピングしたものにラベリングもさせる。
4	・まとめの記事に書く文章を、構成や表現を考えて作成する。	【思考・判断・表現】B書く(1)ア 【主体的】 ○比較する言葉や、順序立てる言葉を使って書かせる。

第4時終了後は、総合の時間でまとめの新聞を作成した。

②話の構成を工夫しよう・聞き上手になろう

次	時間	学習活動	指導上の留意点・評価
1	1	・「私の好きなもの・こと」について、スピーチを行うことを伝える。 ・文章の構成の工夫について理解する。 ・スピーチのテーマを決める。	【知識・技能】言葉・漢字(1)ア ○はじめ・なか・おわりの構成と、書き出しの工夫などについて理解させる。

	2	・原稿作成メモを完成させる。	【主体的】
	3	・スピーチ原稿を完成させる。 ・相手に伝わる話し方（発表方法）について理解する。 ・原稿に読み方の工夫を考えて記入する。 ・個人で発表練習を行う。	【知識・技能】 言葉・漢字(1)ア 【主体的】 ○声の強弱、間、読む速さ、声色など話し方の工夫を原稿に直接書き込ませる。
	4	・ペアで発表練習を行う。 ・班でスピーチ発表会を行う。 ・振り返りを行う。	【思考・判断・表現】 A 話す・聞く[1]イ ○発表中は Google フォームを使って、聞いた発表の感想を記入していく。
2	5	・よい聞き方について理解する。 ・質問の種類について理解する。 ・スピーチの原稿について、ペアで質問をし合う。 ・質問することについて振り返りを行う。	【知識・技能】 言葉・漢字(1)ア ○オープクエスチョンとクローズクエスチョンの違いを理解させる。

6 生徒の活動・振り返り

○比較・分類、情報を整理して書こう（ジャムボードによる活動の様子）

画像①

画像②

2班 月形

北海道初の、樺戸集治炭

明治14年 1888年に創設

北海道で一番最初にできた村が月形村

樺戸集炭は、北海道で初の刑務所

ロシアが企業を買って来たため、日本の政府は、悪いで、企業を買収した

東洋と京城では、足りなくて、北海道につくった。

囚人

今は、通って、職に就いた人が入っていた

職に就いた人たちが、罪人が収監されていた

囚人たちの生活

足には、3.5kgくらいのおもり

すべて手作業で行っている

1500にくらい、労働

費用削減のため囚人が使われた。

しゅう人たちは自分たちで生活する

職はしゅう人たちの作業が始まる合図

脱獄

1500人くらいの中、5人くらい、脱獄中

壁を壊して逃げ、北海道から脱走して、囚人が行方不明になっている

へいを飛び越えて脱走する人もいた

逃げはせうとした人は、組合の上から買つかう

5班 歌志内

豆知識

猿という言葉は縁起が悪い

トンネルに入ったら口笛を吹いてはいけない

危険なこと

炭鉱には落盤などの危険性がある

落盤防止 自然発火

石炭！その正体とは.....

歴史

明治4年初めて歌志内に鉄道が開通

石炭を運ぶために鉄道が開かれた

安い外国の石油を輸入して、炭鉱が使われなくなった

平成4年まで

その他

炭鉱が使われなくなると炭を売って収入は減り、閉坑のときに仕事を辞しに行った

歌志内の人口が減った

上記の①、②の画像のように、多数の情報を視覚的にわかりやすく整理することができた。付箋の色により見やすくしたり、情報に合わせて写真をつけたりするグループも見られた。写真はグループまとめの新聞を作る際にそのまま活用していた。

画像③

2班 赤平

松浦武四郎が九州で石炭を初めて見つけた

自治庁整備工場 国等会館で見せられるように整備された

550年前 石炭が取れるようになった

炭鉱の歴史

1 街の発展と炭鉱の歴史

道具

2

電気で動く機械と圧縮空気で動く2つの種類の機械で通った

ロードホールドランプ、ズリを地上にあげるための機械

小型機械→圧縮空気

ドラムカッター シールドの穴を掘るのに使われていた。今は使われていない。ドラムカッター

立坑 最深 770メートル

エレベーター 100メートル以上まで深いトロッコやクワジで運ぶ

種類豊富 炭鉱の道具

大型機械→たくさんの電気が必要

一段に一車、人だと18人乗せられる

ロードホルダー 電石を拾い上げる。先能ドリルになっている

画像④

1班 赤平 2

暮らし

4280人ほどが働いた。小学校には3000人ほどが通っていた。

炭鉱の職員は約800人

世界 3

世界にも炭鉱があり世界の道具も使っている

「赤平の始まり！」

作業 1

立坑エレベーター 砂速12m年間140万トン

空知の地下をつなげると200キロメートル

費用 4

今の値段で200億で立坑エレベーター

今の10億でドラムカッターを作った

5

立坑エレベーター 1200m

ドラムカッター

機械

ロードヘター

人車

ロードホールドランプ

③の画像は、情報の整理はできているが大まかな分類にとどまっている。④の画像はより細かく分類ができていたグループである。書きたい文章の内容によってどんな情報を必要としているか、目的を明確にできているかどうかで、情報の分類に差が生まれていると感じた。

○話の構成を工夫しよう (Google フォームによる振り返り)

①「原稿の内容について、話す順序や構成を考えて相手に伝わる文章を書くことができたか」

- よくできた (40.9%)
- できた (41.7%)
- ふつう (13%)
- ややできていなかった (4.3%)
- 全くできなかった (0%)

②「話す順番・構成について、相手に伝わる文章にするためには何を意識したか書いてください」

(自由記述)

- ・問いかけを入れた。
- ・「ダイコンは大きな根？」で比較があることで分かりやすい文章になっていたから、自分も比較を使って書いた。
- ・まずそのものの良さを言い、そのあとに具体例を入れた。
- ・レジンを知らない人もいると思ったから、簡単な説明を入れた。
- ・はじめの問いかけを工夫した。なかは自分がなぜ好きかを具体的に説明した。終わりは、努力の大切さとみんなへの呼びかけをした。
- ・自分の好きなことを言うだけでなく相手が知っていることを含ませてわかりやすく伝わるようにした。
- ・「なので」などのつなぎ言葉を意識して文章に入れた。
- ・5W1H を意識した。

③「話す声の大きさや速さ、間などに気を付けて発表できたか」

- よくできた (35.7%)
- できた (43.5%)
- ふつう (15.7%)
- ややできていなかった (5.2%)
- 全くできなかった (0%)

④「話すときの表情や身振り手振りなど、表現を工夫することができたか」

- よくできた (8.7%)
- できた (23.5%)
- ふつう (34.8%)
- ややできていなかった (22.6%)
- 全くできなかった (10.4%)

⑤「話し方の工夫について意識したことや、発表を通して考えたことを書いてください」(自由記述)

- ・話す声のトーンを明るくした。
- ・強調したいところをはっきり話した。
- ・相手の目を見て発表すること。
- ・声の大きさやスピードには気を付けてできたが、身振り手振りは不十分だった。
- ・緊張で話しが速くなりすぎてしまった。
- ・興味を持ってほしいところや聞いてほしいところはゆっくり大きな声で読むように意識した。
- ・練習ではゆっくりすぎて時間がオーバーしてしまったので、本番では意識的に早く読んだ。
- ・目線を上げて読むことができなかった。原稿をもっと覚えておくべきだった。
- ・はじめ、なか、おわりの切れ目は間を取るようにした。
- ・なかで一番伝えたい部分はゆっくり大きく読んだ。

○聞き上手になろう (Google フォーム)

①「話の聞き方(姿勢・あいづちなど)を意識して聞くことができたか」

- よくできた (64.4%)
- できた (28%)
- ふつう (6.8%)
- ややできていなかった (0%)
- 全くできなかった (1%)

②「わからないことや疑問に思ったことなど、質問を考えながら話を聞くことができたか」

- よくできた (58.5%)
- できた (31.4%)
- ふつう (5.9%)
- ややできていなかった (3.4%)

全くできなかった (0.8%)

③「質問をして、相手の話を広げたり深めたりすることができたか」

よくできた (53.4%)

できた (32.2%)

ふつう (9.3%)

ややできていなかった (4.2%)

全くできなかった (0.8%)

④「話が広がったり深まったりするような質問について、考えや感じたことを書いてください」

(自由記述)

- ・これができると話題に困らないと思った。最初は友達の話が分からなかったけど、質問をしていくうちにわかる話題になった。
- ・相手の話題を客観的に聞いた時の率直な「じゃああれはなんだろう」とかを言ってあげるのがいいかなと考えました。
- ・質問をすることで話の中になかった話題がどんどん増えて、話が深まったし、楽しかった。
- ・「特に何が難しかった」など、その話からもっと詳しく聞けるような質問をするとよかった。
- ・疑問に思ったことや共感エピソードを話すことで、話が広がって楽しいと感じた。
- ・自分が共感できることがあれば、「確かに」「わかる」などとあいづちをすることが大切だとわかった。
- ・マッピングのように、いろいろなことをつなげていくと良かった。

⑤「質問をするときに難しかったことやできなかったことを書いてください」(自由記述)

- ・質問に「わかりません」や「覚えていません」と返ってきたとき。
- ・聞きながら質問を考えることが難しかった。
- ・どのようなことを質問すれば相手が話しやすくなったり話が広がったりするのかを考えるのが難しかった。
- ・どのように話をつなげると相手が答えやすいのか。
- ・質問をして盛り上がらなかったときに、次の質問を考えるのに沈黙が続いてしまった。
- ・しっかり相手の話を聞かないと何を質問していいからわからなかったから難しかった。
- ・関係ない話に行きがちで、話題をそらさないこと

7 成果と課題

成果

○比較・分類、情報を整理しよう

- ・グルーピングを用いて、多数の情報を整理することができた。
- ・ジャムボードの機能を活かし、付箋の色や配置を工夫して視覚的にわかりやすく整理することができていた。
- ・整理した情報を基に、目的に沿った文章を書くことができた。

○話の構成を工夫しよう

- ・はじめ、なか、おわりの構成を意識して文章を作成する意識が多く生徒に見られた。
- ・問いかけや比較、具体的な説明など聞き手を意識して興味を引くような工夫を凝らしている生徒が多く見られた。
- ・発表時の声の大きさや速さ、間の取り方など相手に伝わる話し方を意識できていた生徒が多く見られた。
- ・「なか」の重要な部分を強調して読んだり、「はじめ」と「なか」の切れ目に長めに間をとったりするなど、構成を意識して話し方を変える工夫が見られた。

○聞き上手になろう

- ・話の聞き方（姿勢やあいづち）などは意識してできている生徒が多かった。
- ・質問をすることで話題について広がりや深まりが出ることを実感できた生徒が見られた。

課題

○比較・分類、情報を整理しよう

- ・大まかなグルーピングはできていたが、さらに細かく分けることができるものもあった。
- ・どんな内容の文章を書くかの目的意識が足りず、整理した情報を十分に活用できなかったグループがあった。

○話の構成を工夫しよう

- ・視線を上げて聞き手のほうを向いて話すということはまだ不十分な生徒が多かった。
- ・ペアでの発表練習ではよくできていたが、全体での発表になると緊張からか声が小さくなったり、早口になってしまう生徒が見られた。

○聞き上手になろう

- ・聞きながら質問を考えることがまだ難しいと感じている生徒が見られた。
- ・質問をして返ってきた答えからつなげて質問を続けていくことがまだできていない生徒が見られた。

8 北海道国語教育研究大会空知・深川大会に向けて

○単元名：話題や展開を捉えて話し合おう～グループディスカッションをする～（光村図書 1年）

○単元の目標

よりよい話し合いの方法について理解し、他者との意見の交流を通して自分の考えが広がったり深まったりする良さを学ぶ。

○単元計画

時	・学習活動	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いのルールや役割を理解する。 話し合いの目的を捉え、自分の意見をまとめる。 	【知識・技能】 (情報 (2)ア)
2	<ul style="list-style-type: none"> グループで「学校祭の企画」についての意見を出し合い、企画を設定する。(ジャムボード) 	【思考・判断・表現】 A 話すこと・聞くこと (1) イ
3	<ul style="list-style-type: none"> 企画について、グループで実現するための話し合いを行う。(ジャムボード) ほかのグループと企画の内容を交流し、お互いに疑問点や改善点を質問し合う。(Google フォーム) 	【思考・判断・表現】 A 話すこと・聞くこと (1) エ
本時	<ul style="list-style-type: none"> 前時に出た質問について、グループで検討し企画の内容について深める話し合いを行う。 学級全体に質問の回答をする。(スプレッドシート) 前時から話し合いがどのように深まったかをまとめる。 全体で話し合いが「深まる」とは何か考える。(Google フォーム) 	【思考・判断・表現】 A 話すこと・聞くこと (1) オ
5	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの仕方についてよいと思ったことや改善点について振り返る。 他グループの話し合いの内容や結果についてもよかったところや改善点を出し合う。 	【主体的】 (Google フォーム) 【思考・判断・表現】 A 話すこと・聞くこと (1) オ

○本実践の課題と研究大会の授業との関わり

- ・大まかなグルーピングはできていたが、さらに細かく分けることができるものもあった。
- ・どんな内容の文章を書くかの目的意識が足りず、整理した情報を十分に活用できなかったグループがあった。
 →「話し合いの方法を学ぶ」という目的を常に意識させて活動を行う。
- ・視線を上げて聞き手のほうを向いて話すということはまだ不十分な生徒が多かった。
- ・ペアでの発表練習ではよくできていたが、全体での発表になると緊張からか声が小さくなったり、早口になってしまう生徒が見られた。
 →自分の意見を他者に分かりやすく伝えられるよう、文章の構成や話し方などを意識させる。
- ・聞きながら質問を考えることがまだ難しいと感じている生徒が見られた。
- ・質問をして返ってきた答えからつなげて質問を続けていくことがまだできていない生徒が見られた。
 →話し合いを広げ深めていくために、疑問点やさらに詳しく知りたい情報を質問する。
 他者の意見を聞きながら質問を考える。

○研究課題との関わり

①子どもが主体的に学びに向かうための問いを生む工夫

生徒が主体的に話し合い活動に取り組めるように話し合いのテーマを「学校祭の企画」と設定した。また、ICTを用いて話し合いの記録を残すことで、振り返りに活かせるようにしたい。

②小中それぞれ、あるいは小中を貫いて学びをつなげていくための工夫

話し合い活動は、国語だけでなく他教科の授業、さらに社会に出てからも多くの場面で必要とされる力になる。そのため、よりよい話し合いや他者と協働して意見を深め広げていくための方法を学ぶ授業としていく。

○討議していただきたい点

①話し合い活動を振り返る（評価する）ためのICTの活用方法

②積極的な話し合いを促すための手立て（ICTなど活動の方法、教師の声掛けなど）

③話し合いを円滑に進めるためのルール作りや環境作り